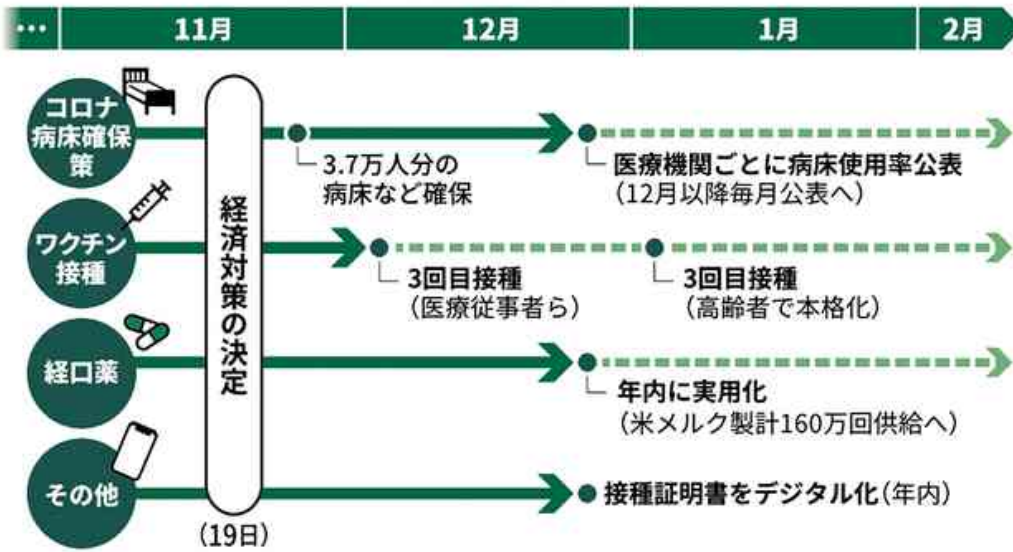


入院患者3.7万人を想定

今後の医療体制の強化・対策の流れ



コロナ対策

新型コロナウイルス対応を巡り経済対策は「喫緊かつ最重要課題」と強調し、先に決めた「安心確保のための取り組みの全体像」の

新型コロナウィルス対応を巡り経済対策は「喫緊かつ最重要課題」と強調し、先に決めた「安心確保のための取り組みの全体像」の



経済対策で病床と臨時の医療施設などを増やす (大阪府内のコロナ重症病床)

るよう体制を整え、病床と臨時の医療施設、入院待機施設を増やす。「第5波」で入院が必要とされた患者数より3割多い想定にした。

これまで「病床確保の補助金を受けながら患者を受け入れていない医療機関がある」との指摘もあった。政府は12月以降、医療機関ごとの病床使用率を毎月公表する方針で、実効性を高めた狙いがにじむ。

自宅療養者向けでは全員にパルスオキシメーターを配布し、医師の目が届かないまま症状が悪化する事態を防ぐ。入院患者増加を防ぐ切り札とされるのが経口治療薬。年内の実用化を目指すとともに、米メルク製を念頭に計160万回分を確保し、順次供給していく計画を明記した。

ワクチン接種は3回目接種の実施段階に入る。12月1日からまず医療従事者を対象に開始。来年1月には高齢者の3回目接種が本格化し、3月には職場接種の対象者でも始まる。

対策は国産の治療薬やワクチンの開発を後押しする方針も盛り込んだ。「世界トップレベルの研究開発拠点を設け、より早期の実用化を目指す。途上国向けのワクチン普及などで海外との連携も強化する。」